



米國ノ碩學ハシリシ、ケリ、氏ガ日本ノ状
態ニ付キ言述セシ如キ確論ヲ排撃スルヲ企テ
不常ノ所論ヲナセルヤツパンメ、此論者ノ
如キモノニ對シテハ我輩ハ空ク弁説ヲ費スラ
止メ唯論者ヲシテ其雄辯セントセル趣旨ノ実
跡ヲ明知セシムルヲ緊要トスルナリ論者ハ初



東京ヲ以テ社譯
千八百七十七年七月廿一日刊行

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

114
A 929



又三ヶリ「氏」何故日本ノ外國ト結盟シタル
曰條約ハ今改正ナラザル歟ノ論説ヲ掲ケ次
ニ自己ノ所論ヲ示シ以テ公氏ノ論説ノ全ク牽
強附會ニ出テタル者ヲ并述シタリ我輩ハ今左
ニ論者ノ駁撃セシケリ「氏」ノ説ヲ略載シ次テ
我論場ニ進ムベシ

ケリ「氏」ノ言ニ曰ク日本政府ノ地位ハ着リ
改正ナラサザレバ國運ヲ傾ル如キ條約ニ曲
從スベキカ或ハ百萬ノ巨艦ヲ東方ノ海面ニ
備ヘ事アルノ日ハ一舉ニテ日本地方ノ間ニ

取行ヘル貿易等ヲ倒却スベキノ國ニ向テ兵
馬ヲ試ムベキカノ二途ニアリト

我輩ハ此論者ノ要點ニ徧及スルノ前「ハ」此論
者ガ其反對論中ニ於テ多少「ナ」此事ニ于涉
セルモノニ付キ些サノ誤述ヲナセルアレバ先
ツ之ヲ弁明スバシ論者ハ條約改正ノ明文ヲ載
セ「ハ」原條ハ全ク英國ノ此言ニ基キテ設リ
ルナリト云ヘリ然レバ其事實タルヤ讀者ノ知
レル如ク米國ガ千八百五十八年七月廿九日ニ
於テ諸各國ニ先テ取結ベルハリ「ハ」條約ヲ

噶失トス而シテ諸各國ノ條約ハ渾テエノハリ
ス、條約ノ体裁ニ模倣シテ制定セルモノニテ
千八百五十八年八月廿六日ニ於テ「ロンドン」
ル「ジョン」氏ノ結盟セル英國ノ條約モ亦之レニ由
リタルナリ又備考ハ千八百七十二年ニ至リ條
約ノ通商規則ヲ改訂スベキノ條ヲ整ハタルハ
「ハリス」ト「エルク」ジョン」ノ兩氏ニテ之ヲナセリト云
ハリ然レハ此通商規則改訂ノ期ハ千八百六十
三年ニシテ千八百七十二年ニアラズ又之ヲ擬
定セルハ英米ノ兩公使ノミナラス各國ノ公使

モ亦関與シタルナリ
如此輕忽粗漏ノ觀察ヲ下セル論者ナレバ其
緊ノ實事ヲ探究スルノ粗ナルモ推シテ知テ
バニ殊ニ備考ガ千八百七十二年ニ於テ英政府
ハ各國ニ先シテ改訂ヲ要望セシモ日本政府ハ
千八百七十三年以來此發議ヲ提出セズ在レハ
其遲緩ノ責ハ全リ日本政府ガ之ヲ不問ニ付レ
タルニアルナリト云フニ至テハ備考若ノ輕忽
大早断ノ甚キヲ見ルナリ
日本政府ガ發回トナリ此發議ヲナセルハ實際

王ニ徴シテ分明ナレトモ而モ公然其談判ノ開
カレザルハ全ク一二ノ外國公使ガ日本帝國ノ
利害得失ニハ更ニ痛痒ナキモノノ如クシテ其
已レノ爲メニ裨益アラザルノ論議ニハ決シテ
耳ヲ傾ケザルノ決意ヲ示セルニ由リニアラ
スヤ試ニニコノ状態ヲ略述セシ平常姑息不斷
ノ責ヲ日本ニ負ハシメ日本ハ何事ニ徧ナリ無
用ノ妨碍ヲナシテ其業ヲ遂クル能ハスト詰責
スルハ外人ノ慣手ノ口吻ナレトモ何人モ日本ガ
斯ル非難ヲ受リベキノ詭アレルハ未タ聞知セガ

ル所ナルベシ固ヨリ日本政府ハ相當ノ談判ナ
レバ取掛ルベキ素念ナレトモ不幸ニシテ未タ
其相當ト認ムルノ議ニ會スルヲ得ザルハ我輩
ガ確信スル所ナリ
姑ク一体ノモノトシテ外交官ヲ概論セバ其輩
ハ唯其國ノ爲ガ既ニ日本ヨリ得收セシ特權ト
其利ヲ私増スルヲ主張シ毫モ省察ノ所置ラ
ズフルヲ欲セザルナリカレバコソ其輩ノ結合
一致ニテナス所ハ日本ガ千八百六十八年ニ於
テ各國ニ奪却サレシ獨裁權ヲ恢復セントスル

要求ニ應スルヲ拒メルナラズヤ是等ノ状態ニ
アリテハ日本政府ガ新談出ヲ開リニ熱心セズ
シテ只管時運ヲ待テルニ真ニ至當ノコトニテア
リキ好シ^又其談判ヲ開リニセヨ斯ル惡弊ノ流
行セルキニ於テハ唯日本ガ不満足トスルノ條
約ヲ更定スルマテニテ到底日本ニ益^益トカルベ
シ然ラバ日本ハ遺憾ナカラキ坐シテ時ヲ待ツ
ノ地步ニ止ルヨリ外ニ手段ナカルベキナリ又
日本政府ガ自ラ面目アリト認ムルノ條款ノ改
定ヲ要スルヤルモ外交官ノ掣肘甚クシテ強テ

之ヲナシニハ新出兵力ヲ以テ條約ノ廢棄ヲ公宣
スルノ外他ニ決策ナシ若シ日本政府ガ此ニ出ルア
レハ日本ハ未曾有ノ結果ニ至ラズルヲ得ザルノ
状アレハ不得止斯ク黙存ノ手段ニ依レルナリ是レ
取モ直クスレリ止ムガ日本政府ハ看々改テナリ
レハ國運ヲ傾タルガキ條約ニ曲從スルカ否レハ大國ニ向
テ兵馬ヲ試ムルカノニ途ニ際セリト論述セシ所以ナリ觀ル
ベシ今日日本ノ國是ノ點存機ヲ待ツ^點ニア
ルヲ蓋シ外國公使モ動ル事情ヲ洞見セシト
見ヘ現ニ某公使ハ我軍ノ記^憶ヲシテ誤リナ

カラシメバ日本政府ノ事項ハ頂ハ頂ク從前ノ條ニ
存レ置リヨリ他ニ得策ヲラズトスル公言セシ
由ナリ然ラバ則ケルハ論考ノ條約改正ノ一
議ニ付テハ日本政府ハ黙存ノ責ヲ逃ルベカラ
ストノ見解ノ信スベキヤ否ヲ推シテ知ルベシ
我輩ハ論考ノ誤見ト誤述トヲ弁述スルノ第一
段ノ論場ヲ起過シ斯ク條約改正論考ノ全局面
ニ進入シタルレバ今茲ニ若クハ定期年^{十四}ニ改
正ヲナスベシトノ期約ノ内容セシ^二遼東ニ付キ
一言ヲ贅スルモ取テ無用ニ属セザルベシトス

論考ハ且ノ千八百五十八年ノハリ^一ハ^二條約カ
其後各國ノ取結ヘル條約ノ模範トナリ^三テ
記牒スベシ若シ我輩ヲシテ此趣旨ニ付キ^四ハ
^五ハ如何ノ考持ヲ下セシカヲ探尋セシメハ當
時條約^六盟ノ人々ノ予想ヲ充分論考ニ了解セシ
ハルヲ得ヘシ夫ノ海關稅ノ如キ自任ノ條約ニ
付テ云ハ^七此條約ハ初メ味公使ハリス^八ノ設定
ニ係リ^九條分カ寛大ノ基礎ニ定メ置シガ歐羅巴
諸國ノ公使等ハ之ヲ肯セズシテ^十城田カ更定ヲ
加ヘ日^{十一}年ノ權利ヲ短縮スルノ^{十二}定則^{十三}變セシメ

リ、ハ、リ、ハ、此、税、則、ヲ、五、ヶ、年、ノ、後、ニ、改、正、ス、バ
キ、條、ヲ、載、セ、而、モ、獲、方、ノ、協、議、ニ、出、テ、サ、ル、モ、日、本
政、府、ノ、請、願、イ、ル、キ、ハ、之、ヲ、改、正、ス、バ、レ、ト、遂、ニ、成、
ハ、タ、リ、ト、今、在、ニ、因、氏、ガ、此、趣、旨、ニ、付、演、説、セ、レ、ル、
ノ、モ、ノ、ヲ、示、ス、レ、

千、八、百、五、十、八、年、江、戶、ノ、條、約、ニ、附、屬、セ、ル、稅
則、ハ、全、ク、予、ノ、手、ニ、テ、製、定、シ、タ、ル、モ、ノ、ニ、テ、其
條、款、中、ノ、一、ヶ、條、ヲ、リ、ト、モ、日、本、ノ、理、事、官、ノ、論
出、セ、レ、モ、ノ、ア、ラ、ズ、又、同、人、等、ノ、改、正、ヲ、發、言、セ
レ、モ、ノ、ア、ラ、ザ、ル、ナ、リ、畢、竟、斯、ル、匹、類、ナ、キ、手、段

ニ、至、リ、モ、ル、モ、日、本、ガ、輸、入、品、課、稅、ノ、事、頂、兼、關
稅、徵、收、ノ、方、法、ヲ、識、ラ、ザ、ル、ヨ、リ、レ、テ、日、本、理、事
官、等、ガ、平、心、虛、懷、ニ、予、ノ、公、當、ニ、之、ヲ、作、為、セ、レ
ト、テ、依、托、シ、タ、レ、バ、ナ、リ、因、ヨ、リ、余、ノ、思、考、ス、ル
所、モ、兩、國、通、商、ノ、未、開、ノ、前、ニ、於、テ、輸、入、稅、則、ノ、設
テ、立、置、サ、レ、バ、如、何、ノ、葛、藤、ヲ、生、ス、ベ、キ、ヤ、ヲ、怕
ル、ユ、ハ、ニ、開、港、前、ニ、ア、リ、テ、是、等、ノ、通、商、規、則、ヲ
定、ム、レ、ト、テ、欲、セ、リ、而、シ、余、ハ、此、稅、則、ヲ、定、ム、ル
ニ、當、リ、只、管、公、平、ヲ、求、メ、レ、一、方、ハ、日、本、政、府、ヲ
シ、テ、外、國、通、商、ノ、利、益、ヲ、ル、ヲ、テ、恐、ラ、セ、レ、ム、ル

程ノ歳入ヲ立セシメ又一方ハ禁輸稅ニ當ル
程ノ苛稅ニ至ラザラシメン^トニ注意セ^ル
余屢日本理事官ニ語テ曰ク人生ノ事業ニ於
テ十年ヲ緊要^ト期^トス國事モ亦之ニ異ナ
ラズ故ニ是下等モ異日此條約改正ノ年期ニ
至ルマテニハ自^ラ此等ノ事柄ヲ所^レ断スルノ
實驗ヲ備フベシト且又余ハ一瞬時ヲリ^テモ
各國ノ内事ニ當スルノ事項ニ于涉スルヲ欲
セズ各國ノ内事ニ于涉スルハ勝國者ノナス
所ニシテ萬國公法ノ通推ニアラザルナリト

右ニ述ビシ稅則ノ外同リ^ハ日本ガ改正ノ期
ニ至リ必ス一勳議ヲ起スベシト信^ジタリシ^ハ
四條約ノ條款中日本ガ^ハ法權ヲ收握スベク
ノ條ニテアリシ此一點ニ付テモ民ハ古ノ公論
ヲ述ベ^リリ
云ク四條約ノ條款中日本ニ在ル一切ノ米^ノ
ニ^ハ法外法權ノ通義ヲ許セルノ條ハ全ク予ノ
所^レ思^ハズ博^シリト又氏ハ曾テ千八百五十五年
ニ^ハ米國ノ國務卿ガ^ハアナル^マリシ^ハ民ニ對シ
或^レ國ノ國^ニ于涉スル^ハ歐羅巴諸國ノ暫

時モ許允セザルニ於テ不正ノ所業ナリト論年
セシ内然レハ氏モ亦斯ル條數ヲ載スルハ
米國ガ土耳其格波斯巴^リ里諸國ト東結タル條
約ノ先例アリテ且院ノ固守シテ變セザル處
ナレバ亞細亞諸國トノ條約ニ之ヲ揭クルハ
止ムヲ得ガレトナリト云ヘリト又云ク余ヤ
考タリ生涯斯ル不正ノ條數ヲ我國ノ條約面
ヨリ削却スルヲ是ルノ期ナカルベシ然レモ
望ラクハ子孫ノ斯等ノ削却ヲ是ルノ期^明テ得
レトヲト

抑モ秘則ト治外法權トノ二問題ガ日本ニ實際
ノ要点タルハ世止ノ論者ノ識ル所ニシテ若シ
此二項ノ整理シタラシ上ハ百事後妨碍タルモ
ノナカルベシ我輩四條約ヲ結盟セシ人ノ所思
ヲ按スルニ此等ノ事ハ全ク當時一時ノ復讐ニ
出デ你為レタルノトニテ過テ定期ノ時限ニ至
リ各其望ム所ノ目的ヲ遂ケ隨テ之等ヲ廢止セ
シトシタルモノニ思ハレサレバ之ヲ以テ日本
ヲ吾人又日本ヲ棄ヘシムルノ具トナスニアラ
ザルハ知ルベシナリ固ヨリハリ込ノ如キ公使

ナレバ無論斯等ノ一ヲナサス又氏ノ所思ノ莫
施セラレシ上ハ今日遂以等ノ條款ヲ存スル一
アルベカラス又口イルド工ルビ氏ノ如キモ
日本カ萬國ノ慣習或ハ公法ヲ無識セザルノ處
時ニ於テ各國ガ如此自條ノ條款ヲ設定シテ之
ヲ強利^行セシメタル^{如キ}所為ノ如何ニ付キ何等ノ具
解ヲ下セシカハ氏ノ手書或ハ日抄ニ就テ之ヲ
詳明スルヲ得ニレ^ル叔也後ニ至リテハ唯本國ノ
一公使ガ斯ル不正ノ状態ヲ歎息シ之ヲ除削セ
レ^ルヲ^テ言^ハセ^ル内^ニテ^モ元來外國官仲間ニ

ハ^ハ根^本國^ノ一^ノ致^スト云ハル一種不當ノ弊風アルニ日
リ也仲間ノ一算ノミノ尽力アルモ之ヲ如何ト
モナスベカラザルベシ然レモ我輩ヲ以テ之レ
ヲ^テ觀^ルレバ世^ノ是^レ循環ノ期ナキニアラザルハ數ノ
然^レモ^レキ^モノニテ是等ノ妨碍ニ拘ハラズ^ル場
ノ新局面ヲ開クニ至ルハ平生ノ信ニテ疑ハザ
所ナリ

千八百七十七年七月廿八日刊行

東京夕刊ハス抄譯

「^マ」此記者ハ輒近英米ノ間ニ行レシ牛肉貿易
ノ進歩ヲ叙述シ米國ノ保護稅家ノ老將ハ如何
ノ觀察ヲナスヤノ問題ヲ提出シテ頗ル得色ア
ルモノト知レ然レモ我輩ヲ以テ之ヲ觀レバ此
問題ノ善タルヤ極メテ簡單ノモノト云ハサル
ベカラズシテ我輩ハ唯該貿易ニ付キ米國ノ牧
牛者ハ一時期待セザルノ利益ヲ擲取スルモ英
國ハ之レガタメ非常ノ損害ヲ招クアリテ畜ニ

該商ノ得失ニ則スルノミナラズ亦全國ノ利害
ニモ関スベキナリト云ハシノミ今其所以ヨリ
明セン夫レ該商業ノ行レシハ英國ノ牧牛者
ハ其得意者が拂ラ厥ハ程ノ高價ヲ收握スベ
キモ尚ホ充分ノ利益ヲ受クルニ至ラザルバ
レ而レテ元素牛肉ガ英國ニ欠クベカラザル品
物ツル以上ハ漸次ニ内國牧牛ノ業ヲ進梅セシ
メ外國ヨリノ該品ノ輸入ヲ禁止シ内國ノ該業
ヲ衰滅セシメザルニ注視スルハ政府ノ職掌ナ
リキ好シ又一時ハ英國ノ牛肉買収者が従前ヨ

リ低下ノ相場ニテ之ヲ購入スルアルモ過テ英
國ノ牧牛者が其ニ其業ヲ失ヒ無益ノ争競ヲ止
ムルアリテ充分外國ノ輸入者ガ其市場ヲ獨占
スルニ至リナバ必ズ其代價ヲ上騰セシムベシ
是レ古今通商上ノ自然法ニレテ一タテ其害ノ
播蔓セシムハ如何ノ術策ヲ施スモ勢ヒ傷クベ
カラザルナリ然ラバ則チ英國ハ内國牧牛ノ途
ヲ断テ全ク之ヲ他國ニ仰ガザルベカラザルノ
位地ニ至シハ其ヲ待タズ若シ其場合ニ至リテ
ハ平常事ノキハ其害左マテノナラザルモ

萬一^米國ノ間ニ戰ヲ開クカ或ハ通商ノ妨碍ヲ
ナスベキホドノ威カラ有セル他國ト戰ヲ交ス
ル日ニ於テハ如何ナル價直ニテモ之ヲ買収ス
ル能ハガレカエハ其害殆ト名状セサルニ至ラ
ン實ニ或レ國ニテ其國ノ日用不可^レ欠ノ食
品ヲ盛ニ外國ヨリ輸入ス之レガタメ内地ノ産
出ヲ衰滅スルニ関セス只管之ヲ他國ニ仰リテ
以テ得業トセルハ我輩ヲレテ云ハシメバ其國
ノ自滅ノ經濟ヲ講スルナリト云ハシノミ

條約改正

デヤツパン^メ記者ハ其紙上ニ登錄シタル
立志社ノ献言ヲ推論スルノ條款ニ於テ偶然條
約改正ノ一議ニ論及シタリ記者モ現今日本政
府ガ不満足ノ狀況ヲ改良セルトスルノ要点ヲ
明認シ現ニ日本政府ガ改良ヲ要スベキ二大問
題ハ税則ノ改正治外法權ノ廢止ノ二事ナル旨
ヲ以テ述ベリ然レニ同記者ハ税則改正ノ權利ニ
付テハ道理上ニ於テ何レノ國モ之レヲ日本ヨ
リ奪收スベカラサルハ爾ヲ待タズ然レハ日本
ハ公當寬大ノ料理ヲ以テ此談判ニ從事スマキ

ノ責アルナリ述ベシ
固ヨリ斯ノ如ク日本ノ要求スベキ眼点ヲ認
コタル記者ノ拾出セシ大文字ヲ審密ニ推福ス
ルハ中ノ不敬ニ涉ルベキヲ免レズト雖モ斯レ
肯緊ノ事柄ニアリテハ些末ノ事タリトモ誤解
ナカルベキヲ要スルニ我輩ハ一言ヲ吐カザ
ルベカラズ抑モ日本政府ガ隨意ニ公平寛大ノ
精理ヲ以テ此談判ニ從事スベキトハ我輩ノ疑
ヲ容レザル所ナレトモ日本政府ガ不適意ノ助
言ニテ之レニ從事スベキノ責アリトハ我

革ノ拒テ容レザル所ナリ記者更ク何國ニ偏ナ
ク海關稅則ノ改正ハ其國ノ通權ナリシトテ失
却セザルベシ何レノ國モ其國利國是ニ適スル
処ニ付キテ之ヲ推按スレトモ其國利國是ニ適
セザル処ニ付キテ之ヲ所断スベキノ責ハ決シ
テアラザルナリ尤モ日本ノ如キ帝國ニ對シテ
ハ歴カラ以テ一種特別ノ見解ヲ取ラシメ又日
本ノ視以テ於ケル如ク其正當ノ特權ヲ施行セ
シメザル如キ一時ノ期約ヲ履マシムルヲ得ニ
シト雖モ若シ真ニ改正ノ日期ハ到達シタルキ

年ニ至リテ之ヲ觀レバ坂岡一伎ハ外國公使
ガ何事ニ依ラズ日本トノ談判トサヘ云ヘバ合
同ニテ日本政府ヲ脅迫シテ各國ノ意ニ曲從セ
シムルノ意ニテ之レニ接スルノ義タルヲ示
明セリ左レバ充分ノ地歩ヲ與ヘテ備スルモ卑
劣ノ計畧タルヲ免レズ又唯刃ニ拒絶妨碍ヲ主
トスル上ハ何タル主義モナリ又論理ニモ合ハ
サルモノナリ
抑モ各國ノ地位タルヤ日本ニ對シテ若クは利害
ヲ異ニス故ニ隨テ其結果スル所ノモノヲ殊ニ

セガルバカラザルハ何人モ明知セシ所ナルニ
各國ノ公使ガ何事ニモ連合一致スルハ何レノ
論理ニ基キタルモノカ更ニ其所以ヲ解セズ試
ニ其一方擧ケテ之ヲ云ハハ英國ノ如キハ低下
ノ規則ヲ維持セシムルヲ國是トスベクレトモ
露國ノ如キハ憂モ之レニ關係ナキナラズヤ斯
ク締盟各國ノ各特殊果類ノ關係ヲ有レテガラ
唯廿一國ノ利益ノタメニ他ノ關係ナキ諸國ガ
連合ノ手段ニ出ルハ抑モ何事ナヤ已ニ守リニ
至リテハ斯ル連合手段ハ昔日ノ夢想ト云ハザ

ルベカラサルモノナリ而ノ當週我紙上ニ登録
セシ米國新聞ノ板葦ニ據レハ米國ノ此夢想ヲ
醒覺シタルモノノ如シ也レバ未タ其蹤跡コソ
現ハサレレ幼國ハ高斯ル睡魔ニ誑サレタリト
思推セバ大ニ嗟爾ノ歎アルヲ免レザルベシ
想フニ橋立ノ國內法權ニ付テハ其施設ノ方法
ノ容易ナラザルノ秋則ノ比ニアラザルハ世上
ノ公認スル如ニシテ日奉政府モ亦其難キヲ識
別セリ然レトモ我輩ハ日本政府ガ其施設ノ難
キヨリシテ記者ノ云ハル如ク日本ガ此事ニ関

心セザルノ状アリトハ是做サズ及之レテ日本
政府ガ百事艱難ノ今日ニアリナガラ裁判法ノ
改正ニ汲ミヨルハ全ク該法權ヲ恢復スルハ意
ニ出タルト確信スルナリ尤モ政府ガ此方向ニ
針路ヲトリタルノ「ハ未タ世ニ公言スル所ト
ナラズ又其之ヲ公言スルニモ及ザル「トス然
レトモ其之ヲ公言セザル女ケヲ以テ日本政府
ハ其進路ノ妨碍ニ阻喪レ又之レニ関心セスト
仮定スルハ甚レキ大早断ナリト云ハザルベカ
ラ不固ヨリ國內法權ノ「「タル「「移則ノ事項ニ

ホトト其難易ヲ反フセザルハ福ヲ待タズ何
ガヤ税則ノ如キハ發議ノ開カザルベカラザル
トアラズ又論議ノ推討セザルベカラザルモ
イラズレテ之ヲ詳言セバ日本ハ現在ノ税額ヲ
改直スルヲ欲セズ日本ハ外方ノ勸言ヲ待タズ
レテ自ラ自國ノ税額ノ割合ヲ定ムルニアルト
リ而シテ萬ニ一タ此公債ノ推理ノ公認サレ
カリレキハ諸國ニ對シテ勸議ヲ起シテ其好所ノ
割合ニ之レヲ更定スルマデニテ公債至正ノモ
ノクニバレ及之レテ法權ノ問題ニ至テハ税則

ト同一ノ考辨ヲ下スベカラズレ^レ必ス他國ノ
懸議ヲ<sup>(義レシム當
ノ後ナレバ)</sup>仰カザルモノアラン作去是レトテ
モ或軍ハ日本ノ進路ハ到底ニ途ニ出デストス
即チ日本ガ其特權ヲ恢復スル能ハザル如キ改
直ニ曲從スルヲ否ハカ或ハ若國ニ向テ全人等
ガ昔日日本ノ微弱ナレシキニ加ヘタル事傳ヲ
解カレテ之ヲ乞ハズレテ日本ノ權カヲ以テ之ヲ
固守スベキノ期ヲ待ツカノ外ハアルベカラズ
ト断定スルナリ

千八百七十七年八月四日刊行

東京の井戸に抄譯

我輩ハ七月八日刊行ノ同ルカカゼ以上新聞ノ
紙ニ於テ日本ノ現狀ニ付キ著實ノ論說ヲ掲
ケタルヲ見タリカ論ハテ二段トシテハ乱賊
ノ事由ヲ推明シテ精察ノ觀察ヲ下シ(仮令些末
ノ頃事ニ於テ誤謬ハ一レ一ハ英國ノ日本ノ
貿易上ノ關係ヲ詳述シタルアリ今其要略ヲ掲
載シテ看者ニ報道スベシ
ガザット記者ノ言ニ云ク我輩は幸ニ於テ英國

ノ人望ノ増加スルヲ見ズ其人望ノ増加セザル
ハ全ク英人ガ日本ニ加フルニ萬國會議ノ苛酷
ノ條款ヲ以テシテ日本人ニ憤懣ヲ抱ナシムル
ニ由ルナリ何ヲ以テ之ヲ云フ日本政府ハ各國
ノ條約ニ妨ケラレテ由國ニ於ケルガ如ク関稅
ヲ課シテ其要スル財、資金ヲ徴 賦ハス
現ニ日本ニアル新関稅ニ據ルニ英國ノ海關ニ
テハ年々英貨卅萬封度即ケ其歲入ノ四十分ノ
一有奇ヲ生スルモ日本ハ海關ニテハ三十五萬
封度即ケ其歲入ノ三十分ノ一以下ノモノナラ

テハ生セザルナリ又諸各國ハ日本政府
ヲレテ其相痛ト思考スル處ニテ百事ヲ整理セ
シテガルトヲ以テ恒久ノ政略トスルモノ如シ
ト去我儕ヲ以テ之レヲ觀レバ斯ク英國ガ日本
ニ加フルノ壓制ノ決レテ好末ニ 賦ハス
ヲ識得スルナリ何レレバ方今ノ如ナレバ英
國ノ製造品ノ需要ノ永遠ニ衰微スルノ期アル
ハ必至ニ 然ルニハ英國ハ必ク斯ノ如キ争
抗不真実ノ心思ヲ減スルノ策ニヨラザルハカ
ラ成レバナリ故ニ我國人ノ今日ノ急務ハ如ク

日本ニ不幸ヲ被ラシムルノ理由ヲ放擲シテ其
倭ニ置リバカラザルニ在リ若シ之ヲ放擲
シテ顧ミカレバ異日我國人ガ平素熱心要望セ
シ如クモノ即チ我國ノ貿易ノ増進亦我國ノ交
際ノ信用ヲ自ラ粗碍ルルヲ發見スルニ至ルハ
將ヨ容レザル所ナリ

歐米ニ在リ論者ト日本ニ在リ論者ト外國

ト所論ヲ殊ニセルノ状

凡ソ日本ノ事物ニ付キ歐米ニアル論者ノ論跡
ヲ探尋スルノ人ハ必ス近年歐米論者ノ口吻ト

日本ニ在リ論者ノ性質トニ於テ驚クバキ反對
ノ所論アルヲ愕然ニスルアルベシ實ニ其反對ノ
甚シキヤ雲壤齟ナラズシテ偶然之ヲ看破スル
ノ讀者ハ其所論ガ同一ノ問題ニ於テ各殊ノ見
解ヲ下セシトハ何レニモ見做キホド
ナリ是レ他ナシ同一ノ事情ヲ論スルニ當リ唯
ニ反對ノ地步ヨリ論及スルノミナラス全ク人
ヲシテ一律殊別ノ論題ナリト思考セシムルホ
トノ不同ノ見解ヲ下シタレバナシ
ナマテモナキトナガラ外國ノ論者ハ大物懇厚

ノ情ヲ示セシニ日本ニ在ル邦人ガ日本ヲ非
難大ルノ精神ハ三宇熾盛ナルハ真
ツバシ
歐米論者ニモ一殊ニ西海ノ論者中ニハ日本ノ緊
要ノ事頂ニ付テ随分モ架空ノ説ヲナスノ慣
習アリトモ其由来スル所タルヤ
如キ備
遠ノ地ニテ数年カノ間玩弄好奇ノモノトシテ
見做シタル日本ノ如キ國民ノ情態ニ付キテハ
今日ニ於ケルモ高精密ノ推考ヲナスベキヲ知
告ヲ得ガレニ由レルナリ而シテ國ヨリ敢テ留意

ニ出タレニアラズニテ其不注意ノ論説ノ内ニ
モ自ラ好意ノ情ヲ現出スルヲ怪アリ然リト虽
氏日本ガ西海ノ以認ヲ得シト黽勉從事スルノ
新事頂ニ関シタルキハ真実ニ之ヲ論議スルア
リテ恰モ一層文化ノニ達シタルハ
ト同等ノ禮ヲ以テ之ニ過^ズテ将来交誼ノ如何
ヲ整セルヤリ斯ル情思ノ若國ニ於テ他國ニ比
レテ一層其著シキヲ見ルハ敢テ聲リバキノ
ニアラズ畢竟當道日本ニ迫リ鎖國ノ解
カレタルモ未人ノ所為ニ為スレハ未ノ

記臆ニ存スル所ニシテ又日本ノ幸福ヲ維持ス
ベキノ責モ自ラ米人ノ意中ニ止ラバカ
ガルノ姿アレバナリ彼ノ先年日本ノ大使ノ巡
廻ノキ諸國ニ先テ米國ニ赴シモ之ニ基セリ
ト云フベカラズ且本國ニ在ル日本ノ駐劄官
概シテ米人ノ氣質性情ヲ熟知シテ
米人ノ断ハズ日本ヲ賞歎スルノコトアルハ
兩國ノ交際止ニ於テ大ニ補フ所ノモノ歎サナラ
ズトス又一步ヲ進ムテ之ヲ考フレバ米國ハ距
今殆ント一百年前ニアリテ各國ノ公認ヲ得レ

ガタメ非常ニ困苦セシトハ今尚米人ノ口碑
ニ存スル所ニシテ為メニ憂心スルノ情アレハ
米人ハ其心ヲ擴充シテ之ヲ東洋ニアリテ獨立
ヲ希望セル日本ノ如キ帝國ノタメニ尽サレト
セシナラシカ好シ米人ノ思想ハ
セヨ米人が日本ヲ保護スルノ情アルハ實事ニ
徴シテ分明ナルバリシテ斯ク其相依り相助リ
ルノ意ハ日米兩國ノ人民ノ心裡ニ存セシモノ
ト思ハル故ニ米國ノ新聞類ニ於テモ何事ニ拘
ラズ日本ニ關係ノ論題ニ互ニ夕レキハ斯ル親

密ノ語ヲ見サルヲ殆コト希ナリ
又一轉シテ英國ヲ觀ルニ世人民ガ礼兒尊重ヲ
以テ日本ヲ待スルニ状ハ米國ニ比シテハ稍々
遲キヲ見ルト雖モ^之花^ニハテズ其進歩ノ勢ヤルハ
世人ノ耳目ニ顯然リリシ現ニ英國ノ新聞記者
ノ輕口酷薄ナル論者ノ如キモ概シテ日本ニ對
シテ寛容ノ性質ヲ顯シ又或ハ日本ハ歐海各國
ノ帝國ヲ遇スルト同等ノ禮節ヲ以テ接待スベ
キノ國ナリシトヲ述ブルモノアリトナリト
誠ニ偏執ニアル屈指ノ新聞ヲトリテ之ヲ檢ス

ルニスマクテトト此^ハ同^クル^ガル^ガゼツトエキガ
ミノ此ノ如キハ常ニ日本ニ對シテ在當ノ公論
ヲ唱ヘ又タイムズノ如キモ通常英國ノ輿論ヲ
待テ然後ニ自説ヲ發スルノ慣習ハアル免レ角
其^ハ所^ニ論^スタルヤ極メテ日本ニ厚情ナリト意アリ
又ニユ^ハト^ハハモ日本ノ進歩ノ状ヲ賞歎スルノ方
向ニ前ハノ傾キニアラズ且ツ各州ノ新聞ニ
於ケルモ同一ノ文字ヲ載スルアリテ其他日誌
類ノ日本ノ事頂ヲ論スルモノモ等々好意ノ言
アルヲ見ガレハナシ之ヲ要スルニ英人ノ口吻

ニ於テ不條理ヲ訴フベキモハ断テアラズ
且又歐州本部ノ諸國ニ於ケルモ英國ホトニ
ハ至ラサレトモ同一ノ情勢アラザルハナキナ
リ
畢竟我輩ガ斯クノ如ク日本ハ他國ノ愛顧ヲ受
ケルノ國ナレバ其愛顧ヲ受ケザルノ國ニ比レ
テハ其分カ緊要ナル交際上ノ事項ニ於テ今一
層日本ニ益スル処ノモノヲ作為シ得ズレト思
考スルモ全ク是等ノ事情アルニ由ルナリ蓋シ
我輩ヲ以テ之レヲ觀レバ日本ノ内ニ於テ各國

トノ誤おヲ作為セントスルニアタリテハ日本
政府ノ意思ニ背反スルノ端ヲ主張スルモノナ
カラサレトモ外國ニアリテハ決シテ斯ル及對
論アルヲ是ガ詳ニ云ハバ日本ノ有司ガ日本ノ
内ニテ談判ヲナスヨリハ外國ニアリテ談判ヲ
ナスアラハ必ス其厚遇ヲ受クバシトスルナリ
夫ノ千八百七十二年華清頓府ニテ制定セル條
約ノ條盟ヲ果サバハ多少其阻碍スバキ理由
アリタルニお違ナキニセヨ若シ其事業ノ因所
ニ於テ施行サレシキハ恐クハ東京ニテ結盟ス

ル能ハザル処ノ相當ノ盟約ヲ遂ゲタリシナル
ベシ

夫レ日本ノ如キ地位ニ際セル國ニテハ外國改
府ガ其公使等ノ切ニ權威ヲ張リテ何事ニモ阻
碍ヲナス如キモノノ手ヲ經由シテ交際ノ事務
ヲ作為セシヨリハ寧ロ直接ノ所漸ヲナスニ如
クハ然ルキハ一層公明至當ノ一ニ至ルベシト
ハ識者ノ通論ヨリ想フニ往年外國政府ガ日本
政府ニ被ラシメタリシ不正ノ所業モ各邦ヨリ
遠隔セル東京ノ如キ地ニシテ各公使等ガ容易

ニ事ヲ隱微ニ伏シ得ベキノ場所ナレバコソ之
レ等ノ行レシモノノ若シ華清頓或ハ倫敦或ハ
巴里伯林ノ如キ接近ノ所ニテ同人等ガ暗昧ニ
事ヲ處スベカラザルノ場所ニ於テハハ決シテ
之レ等ノ一ハナカリシナルベシ是レ他ナシ
文社會ノ意想ト全國人民ノ人情トアリテ暗昧
ノ事業ヲ公認セザルバナリ
我輩ハ斯ル惡業ノ已ニ既往ノ一ニ属セリト信
用セシモ豈計シ今日ニ至ルモ尚外交官ノ區域
ニ於テハ是等ノ拒絶ノ精ハ故態ヲ有スルア

リテ往々事業ノ上ニ於テ其跡ヲ察見セリ察ス
ル必日本ニアル外則新聞記共ノ過半所論ヨル
ヤ此國ニテハ斯クアルベシトノ想像論ニ出リ
ルモノニ似ヨリ好シ又其想像ニ出ルト否トハ
指テ其論説ノ粗暴苛酷ノ論説ニ出テタルハ明
瞭ナル所ナリ實ニ尋常著述ノ知愛ヲ有セルモ
ノニシテ日本ノ如キ國ガ虚聲ヲ以テ懐リベカ
ラス罵詈ヲ以テ威トスベカラザルヲ知ラザル
ハ大奇怪ノ事ナラズヤ又同人等モ罵詈朝笑等
ニテ**我國**ノ人民ノ人望ヲ移スベカラザルヲハ

自身ノ事ニ考フルモ了知スベキ苦ナリ又本ア
ンゲローヤキリシ人種ハ通常利益ノ何レニ
アルヤ否ヲ見ルハ敏捷ニシテ常用ノ犧牲ヲ十
スヲ避リルニ極メテ巧手ナリシニ何故日本ニ
アル國一ノ人種タル論者ニシテ切ニ暴論怪説
ヲ主唱シ英日兩國ノ間ニ不信用ト侮慢トノ永
世不朽ノ堅壁ヲ構造スルヲ努メシモノカ我輩
其所思ヲ知ラズ

投書

我儕ハ屢貴重ナル貴社ノ紙上ニ於テ貴社ガ英
人本部ノ性質ヲ誤述シタリト思ハルノ文字ヲ
見出セルト勘トセズ想フニ貴社ハ我が英國ガ
内外ノ貿易ヲ進捗セシメガタメ不面目ノ手段ニ
頼リ或ハ世以ノ通商ヲ齟齬セシメガタメ積弊ノ
方便ニ籍ルヲ破廉恥ノトト論述シ又英人モ亦
所業ニ付テ自ラ慚愧スバキ筈ナリト宣断セシ
モノノ如シサレバ貴社ニ以テ事柄ヲ明解セ
シハルハ我輩現場ノ急務タルベシト思考ス佛

帝那波烈翁曾テ我國ヲ喚テ小商人國ト云ヒリ
リシ蓋シ那波烈翁ハ我輩ヲ蔑視シテ斯ク名稱
ヲ下シタルナルベキモ佛帝ノ斯ク蔑視シタル
ノ語ハ我輩英人ニトリテハ誇揚スル所ノモノ
ニテアリキ抑モ我國ハ世界ノ通商國ニシテ我
國ノ史集ヲ熟知シタルンモノハ必ス其事跡ヲ
宗知セシナラズ詰リ一口ニ云ハバ我輩ハ何レ
ノ國何レノ所ニ於ケル通商ヲモ簡占セント欲
シタルナリ然レニ此情願ヲ果スヲ得ザルハ全
ク我輩ノ罪ニアラス他國ノ人民ガ至學頑固ニ

シテ之ヲ拒ムニ由ルナリ又我文際止ノ政略ニ
於ケルモ我が通商ノ利益ノミヲ正鵠トセサル
ハナシ故ニ我輩ハ傲然ト世人ニ對シテ英國ホ
ト通商ノ利益ニ関心スルノ國ハ世界中ニ於テ
恐リ其數ヲ見ザルベシト誇言スルモ過當ナラ
ザルベシ畢竟外國ノ革命ニ至リシ戦争亦未
國ガ合衆國ト改稱セシニ奉ノ損失モ其原ヲ推
セバ皆英國ノ通商ヲ保護スルノ意ニ出デタル
ナリ若シ當時未ク植民地ノ為民トシテ其租
稅ヲ納ムルヲ肯シタラズニハ何事モナク其德

無事ナルベキニ米人が頑固好聞ノ吾人種ナリ
ヨリ斯ク我軍ニトリテ不満豆ノ結果ヲ生セシ
メタルナリ以テ我國が関涉シタル戦争ナレバ
大概ハ此原因ヨリ由来ニザルモノナリ現ニ支
那トノ鴉片ノ戦争ノ如キモ其的例ナリ故ハ
支那ニ鴉片ノ市場ヲ開クハ英國ノ通商ニ不可
欠ノモノニエハ我政府ハ堂々正々ノ陣ヲ以テ支
那政府ニ迫リテ鴉片輸入ノ禁ヲ解カシメ我カ
通商ノ繁榮ヲ増カシメタルナリ
蓋シ何レノ國モ我國ノ如ク各年數萬ノ人市ヲ

毀損スベキ商品ノ市場ヲ開弘センガタメ交友
國ニ對シテ戦ヲナセシモノアラザルベシ去
任令ニ何ハ免モアレ通商ノ一ニ互リテハ我政
府ハ片時モ狐疑猶豫スルコトナクシテ我國一般
ノ商賈モ我國旗ノ下ニ庇保サルベシト信用セ
ルナリサレバ我軍が非常ノ勤王心アリテ永世
不朽ノ信義ヲ堅惹爾ノ十字ノ下ニ奉スモ固ヨ
リ驚クベキコトニアラザルベシ
日本ノ如キモ已ニ我通商策略中テモノニ爲シ
日本地方ノ諸港ヲ開カシメ英國産出ノ物品ヲ

名義タケノ税ニテ輸メセムルニ至ラシメタ
リ貴社ハ宜ク我輩ハ何種表ヲ論セズ日本ノ工
業ヲ傾倒スベキ機會ヲヘアレバ我輩ガ之ヲ傾
倒スベト云知アルベシ是レ他ナシ我輩ガ常
ニ繁榮ヲ汲コ希望スルモノハ唯我國ノ工業ニ
アリテ他國ノ工業ニアラズ又文際止ニ於ケル
モ陣テ以是トテ以テ各事ヲ施行セルナリ我輩
ハ亦常自由貿易ノ主義ヲ主張セリ然レモ其
主義タルヤ我國ノ為メ自由貿易ニシテ更ニ他
國ノ一ニハ病痒ナシ故ニゴレスタシケノ一トブ

此士ニ在ル我公使ノ如キモ士政府ヲ説得シテ
同國産ノ敷物絹紗他各種ノ織物ニ高割込公ノ
輸出税ヲ課スルヲニ裁決セシメ將來同國ガ其
等ノ物品ニ於テ我國ト争競ヲナスベカラザル
ノ預防ヲナシタルナリ
我輩ハ外人ニ向テ若ニ自由貿易ヲ説法スルト
モ如何セシ彼ノ頑固ノ癖撲ハ更ニ我言説ヲ納
レズ飽マデ高税ヲ課シテ内國ノ工業ヲ保護ス
ルノ愚策ヲ墨守セリ之ヲ自由貿易ノ語ハ我説
話ノ樞語ニシテ外人ニ會サハスレバ必ス言ヲ

登スルヲ愛國ノ義務トス云ク且下ノ國人ガ保
護稅ト云へル其用ノ妄想ニ固著スルハ勇モ甚
シト云フべし且下ハ四ノ各港ヲ開キテ自在ニ
萬國ノ通商ヲナサレムニ然ルハ貴國ハ自
ラ繁栄富強ニ赴リベシト然ルニ未人ハ之レニ
對テ云ク貴國ハ曾テ其工業ヲ私張スルコトハ
貴國ノ工業ヲ保護スルノ政略ニ由リシガ其後
ニ至リ不知意ニ其主義ヲ變シテ自由貿易ト化
シタルナラズヤサレバ吾人モ貴國ノ先例ニ倣
ヒ我國ノ工業ノ進歩シタルキハ貴國ト同一ノ

手段ヲナスベシ吾人ハ已ニ各種ノ事物ニ於テ
ハ随分トモ貴國ト競争ヲナシ能フベケレド製
造ノ點ニ至テハ今十年カ二十年ヲ経ガレハ匹
敵ノ場合ニ至ラガレバ其匹敵スベキ上ニテ貴
國ノ政略ヲ奉ズベキナリト
未人ノ此說話ノ似是實非ノモノタルハ我輩ノ
喋リテ要セガレバリ勿論我輩モ決シテ未國ノ
工業ノ發達ヲ安待スベキノコトヲナサズ若シ安
然トシテ其發達ニ任セテハ未國ノ點習ナリ職
工等ガ我無學ノ徒ニ抗抵シ加フルニ有方ノ器

械ニ由ケテ求ムテ我市場ヲ掠奪シ我商務ヲ収
却スバキニ至ルベシ此ヲ以テ我商賈モ保ク之
等ヲ了解シ斯ル結果ニ至ラサラシメンテ注
視シ米人ニ向テハ荐リニ自由貿易ノ主義ヲ遂
認セシメ我物品ヲ米國ノ市場ヲ充塞セシメテ
其工業ヲ未盛ノヤニ壓却セシテ努力メタル十
リ支ノ教育ノ自由貿易社中モ同所ニアル英國
ノ輸入者ニテ成立ケタルモノニテ是等ノタメ
ニ設立シタル社中ナレバ其出版物或ハ會議ノ
諸ノ費等モ渾テ英國ニテ之ヲ弁セリ斯ク我革

ハ其方略ニ尽シタルガエハ幾分カイ米人中ノ
卓絶ナルモノニ我主義ヲ承諾セシムルニ至ラ
シメタルトモ未タ米人ノ十二八九ハ頑固ニシ
テ恰モ慈雨第三世ノ時代ノ父祖ニ異ナラザリ
シ
固ヨリ我革ガ自由貿易ヲ主唱スルハ我國ノ為
メノ自由貿易ニシテ他國ノ為ノ自由貿易ニア
ラザルガエハ我革ハ我國ノ出產ノモノニアラ
サレバ何様ノ品モ之ヲ蔑視セザルヲ得不通常
我著述者ハ米國出版ノモノヲ視レバ何人ガ米

國ノ書ヲ讀ムヤト嘲ケルコトアレバ我ニモ何人
 ガ本國ノ物品ヲ用エルヤト誇ラザルベカラズ
 然ルニ昨年ノコトナリシガヤンキ（外人ノ誇ル語）ハ大胆
 ニモ本織物ヲ我國へ輸送シマンケエス（ト）ノ
 織物ヨリハ底價ニテ之ヲリバグー（ト）或ハ倫敦
 ニ鬻キタリ依テマンケエスタ（ト）ノ製造者ハ會
 議ヲ開キ米國ノ本綿織物ハ輸入税ヲ課スルキ
 ノ議ヲ政府へ献言シ又同時ニ鐵製造人モ米國
 ノ鐵製品ノ英國ノ諸國ニテ賣販アリシニ付キ
 同ノ課税ノコトヲ献議シタルナリ

我輩ハ充分我英國ノ通商ノ政略ヲ明示シ又我
 年ガ小商人國ノ状態ニテアリ又其小商人國々
 ルヲ誇揚シタルヲ貴社ニテ解セシメタリト信
 スルナリ而シテ我輩ハ遠カラズ我國ガ旗章ノ
 文字ヲ變換シテドエエモシドエ（ト）ワ（ト）ク（ト）ツ（ト）ト（ト）ト（ト）ト
 ドイブリホヘヤ（各所ノ通商ノ）管理スル（ト）ホニソワキマルイマンセ（ト）シ
 不良ニ考フルモノハトナサ（ト）望ムナリ（根スルニ前後二句ハ逆前ヨク）
不長ノ答ムアルニシテ）不長ノ答ムアルニシテ）
中間ノ一句ハ更ニ加ヘタル文字ニテ誇リ英國ハ後手ニ付レノ所ノ通商ヲ管理スルベ
シ差シ之ヲ不長ト考フルモノアラハ固ヨリ不長ニ考フマシ必ス相違ノ四對ハ税レ
ルノ意ナリ）

